

図書館だより

天理高校 図書館 2022年9月

読書の秋の始まりです



9月というのに、まだまだ真夏のような暑さが続いています。みなさん、いかがお過ごしですか。2学期も新着本や、特別展示本など、どんどん本を紹介したいと思っています。読みたい本があれば、どんどんリクエストしてくださいね。

まず、今年度新しく着任された「先生方からのおすすめ本」紹介パート②です。みなさんに読んでほしいとおすすめして下さった本です。私も、読みましたが、一気に読んでしまう本ばかりです。みなさんも、ぜひ手に取ってみてください。

第167回芥川賞・直木賞が7月20日に決定しました。受賞作と作者を紹介します。受賞作・関連本は、図書館にありますので、ぜひみにきてください。



「先生方からのおすすめ本」特集!!

『仮面山荘殺人事件』 東野圭吾 (講談社)

主人公と結婚を控えていた女性が自動車事故により亡くなってしまいます。その後、主人公は女性の父親が所有する山荘でのパーティーに招待されました。そこで、次々と思ってもよらぬ事件に巻き込まれていきます。一見、普通の内容のように思い読み進めていきましたが、後半にすごい展開が待っていました。文章がわかりやすく、読みやすい本です。最後にどんでん返しが待っていて、読み終えた時の衝撃がすごいです。小説を読むのが苦手な人におすすめします。(理科 林田先生)



『ルビンの壺が割れた』 宿野かほる (新潮社)



あまり長くないので、読書が苦手な人でも読みやすいと思います。また Facebookでのメッセージのやり取りで話が展開しているということも、あまり他の小説では見ない構成で、新鮮に感じるところです。何といっても、始めは心温まる話なのかと思っていたら、読み進めるうちに、こちらの予想がどんどん裏切られ、先の読めない展開になっているところが、魅力的です。読書が苦手な人、また、いつもとは違った本を読んでみたい人におすすめします。「えっ!?!」と驚く展開が次々とやって来て、最後には何とも言えない、決してすっきりしない気分になりますが、これまでの読書体験では味わえなかった気持ちに、きつとなることでしょう。(2部 国語科 水上先生)

読んでみたい人におすすめします。「えっ!?!」と驚く展開が次々とやって来て、最後には何とも言えない、決してすっきりしない気分になりますが、これまでの読書体験では味わえなかった気持ちに、きつとなることでしょう。

(2部 国語科 水上先生)

『余命10年』 小坂流加 (文芸社)

普段、小説はあまり読みませんが、この本は、映画を観て、その帰りに購入しました。映画で泣き、小説で泣き、泣き顔を見られたくない人は、1人で読むことをおすすめします。(＃^_^＃) 作者の小坂さんは、主人公と同じ病で、それゆえのリアリティのある描写に胸がしめつけられます。「あと10年しか生きられないとしたら、あなたは何をしますか」 ”当たり前であることの幸せ“を感じられる、1冊だと思います。主人公は20歳で、みなさんとの年齢も近いので、自分と重ねて読むことができるのもこの本の魅力です。(2部 数学科 中山先生)



『数学ガール』 結城浩 (ソフトバンククリエイティブ)



問題と解説が載っているような数学書ではなく、高校生の会話や疑問、葛藤の中から、数学の面白さや美しさを感じることでできるストーリーです。私が、数学を好きになるきっかけの1つになった本でもあります!

登場人物は、数学が得意な子もいれば、どちらかというと苦手な子もいます。彼らが疑問に思っていることと、重なることが度々あり、小説を読みながら、問題を解決してゆけるところに魅力を感じます。数学を好きな人、これから好きになりたい人にぜひおすすめします。(数学科 山本先生)

第167回 芥川賞は高瀬隼子さん、直木賞は窪美澄さんが受賞

『おいしいごはんが食べられますように』 高瀬隼子 (講談社)

「二谷さん、わたしと一緒に、芦川さんにいじわるしませんか」心をざわつかせる、仕事+食べもの+恋愛小説。職場でそこそこまくやっている二谷と、皆が守りたくなる存在で料理上手な芦川と、仕事ができがんばり屋の押尾。ままたまらない人間関係を、食べものを通して描く傑作。(講談社 HP より)



高瀬隼子さん

1988年生まれ。34歳。愛媛県新居浜市出身。立命館大学文学部卒業。2019年「犬のかたちをしているもの」で第43回すばる文学賞を受賞、2021年「水たまりで息をする」で第165回芥川賞候補。

『夜に星を放つ』 窪美澄 (文藝春秋)

学校でいじめを受けている女子中学生と亡くなった母親の幽霊との奇妙な同居生活を描く「真珠星スピカ」、父の再婚相手との微妙な溝を埋められない小学生の寄り添いを描く「星の随に」など、人の心の揺らぎが輝きを放つ五編。(文藝春秋 HP より)

窪美澄さん

1965年東京都生まれ。2009年「ミクマリ」で第8回「R-18文学賞」大賞を受賞。11年、受賞作を収録した『ふがない僕は空を見た』で第24回山本周五郎賞を受賞、本屋大賞第2位に選ばれた。12年、『晴天の迷いクジラ』で第3回山田風太郎賞を受賞。19年、『トリニティ』で第36回織田作之助賞を受賞。



入口特別展示